

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人 おもと会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	令和3年 10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&Ji_kyosyoCd=4770500132-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心安全に暮らせる。健康的な温かい食事。ゆったりとした時間。残存機能保持の為に合同のレク体操。個別ケア。現在準備中ではありますが面会がままならないご家族様へ毎月の利用者様の様子をお伝えするレター作成中。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が生活しやすい環境を整え、個々の生活を重視し特に健康面に留意して日々のケアに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染予防の為、室内で過ごすことが増え、筋力低下防止の為の体操やレク活動、折り紙など、日々の活動を工夫して楽しみに繋げている。又、今まで面会時に手渡ししていた、広報委員が作成した「さつきだより」を、利用者の写真を多くし居室担当者からのメッセージも添えて、家族に郵送で届け、家族から喜びの声や「データーがほしい」の声も聞かれる。食事は3食事業所で調理し、利用者もできる範囲で参加し、職員も利用者と同じの食事を摂っている。法人の管理栄養士作成の献立であるが、利用者の希望等も取り入れ柔軟に献立を変更して提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の見えるところに掲げ共有している。地域との交流は現在出来ていない現状あり。	事業所理念と職員理念を作成し、職員が常に意識できるように掲示している。利用者が生活しやすい環境を整え、残存機能が活かされるように、利用者の視点に立って、日々支援出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在地域との交流コロナ禍の為中止中。	地域の、3自治会長が運営推進の構成委員である。コロナ禍以前は、情報を得て地域の行事等に参加、交流していた。現在は地域との交流は自粛している。管理者交代もあり、4月に新・旧の管理者が一緒に、地域とのつきあいが継続出来るよう3自治会を訪問して挨拶を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症の勉強会開催出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為自治会の方との運営推進会議中止中。	運営推進会議は、コロナ禍で昨年4月から開催を中止し書面で報告していたが、今年度は開催、書面報告も行っていない。	新型コロナウイルス感染も減少傾向で、状況を見ながら開催か、構成委員に事業所の状況を書面で報告して意見を聞く機会と利用者家族が会議に参加できる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ネットでの第一回GH連宅会議を10/20に開催、各事業所間、市役所(介護長寿課)と連絡を取ることができた	市担当者とは、窓口訪問時やグループホーム連絡会で交流している。現在中止している運営推進会議開催に向けて、会議の持ち方等を電話で相談、話し合いを重ねている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのアンケートを定期的に行っている	管理者、職員は指定基準において禁止となる具体的な行為を理解している。会議も職員間で定期的に行われ、身体拘束についての考えや拘束しない為の工夫など職員にアンケートを実施している。管理者は、利用者がベットで休まれた時の車イスの配置やスピーチロックについては、事例を取り上げて注意喚起している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや管理者から指導を都度行っている	高齢者虐待防止対応マニュアル、高齢者虐待チェックリストも作成されている。安全委員を中心に、利用者の情緒面、身体的変化(痣、腫れ、剥離等)も職員間で話し合い、法人に報告している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者が1名、情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まだ契約の場面に当たったことなし。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為家族会(年2回)中止中。面会も同様の為、1か月に1回の状況報告を記入し郵送予定。また病院受診の際聞き取り行っている	利用者からは、日々の生活の中で聞く機会とし、家族からは、電話等で聴いている。コロナ禍でガラス越しで面会を行っていたが、感染が減少傾向の事から、対策を徹底して15分以内の戸外の面会もできる事を伝えている。又、今まで「さくらだより」を面会時の手渡しから郵送に変更した事で家族から喜びの声がある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り、個別での話し合いなどで行っている	職員の意見や要望は、日々の業務の中やミーティング等で聴いている。調理用の鍋等の購入は反映している。入浴チェアでは座位が困難な方がおり、利用者や職員の負担軽減や安全面からもストレッチャー購入の意見があり法人に要請している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体に負担がかからない支援の仕方(ノーリフト)の導入と入浴時使用するストレッチャー要請中。また休日の希望は制限をかけず出来るだけ受けるようにしている	職員は、健康診断の実施や働き方改革関連法による年次有給休暇も取得している。年1回の面談や、いつでも法人産業医に相談できる環境を整えている。職場によるハラスメントの指針やハラスメント防止に向けたマニュアルも作成し就業環境を整備している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修へ参加やおもとの会の定期的な勉強会への参加。今後当番制で議題を決めミーティングで勉強会を開催してもらう予定		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMでのGH連絡会での相談、交流や敷地内にある老健や小規模多機能の職員と積極的に連絡を取り合い必要な情報を職員と共有している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず職員間で情報共有し観察しながら関わる努力をしている。またご家族から以前の生活様式や好きなものなどの聞き取りを行い安心できる状況づくりに努めています		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が施設に来所(オムツ持参時、病院受診時)した時に聞き取りを行うようにしている。もしくは必要に応じて電話で確認		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族へ報告と相談を繰り返し行い、相違があれば修正している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遠慮せず話が出来ると雰囲気づくりと声掛けを心掛け出来ることはして頂くことで生活を共同している感覚を持って頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会中止中の為、今後ひと月にあったこと(健康状態、睡眠、食事、行事、排泄等)を記入し郵送予定		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会中止中、今後対策をしっかりと面会出来る方法を感染対策本部と連携し検討中。希望があれば電話か施設ガラス越しの面会は行っている	地域社会との関係性は、家族や本人から聞いたり、以前の記録を読み起こして把握に努めている。コロナ禍で自粛が続き、馴染みの人や場との関係継続は難しくなっている。事業所内で出来る事を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通して交流をもっている。ホールの席の配置に気を付けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	もしご連絡があれば喜んで対応したいと思いません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者が中心となり情報共有し日常的な会話の中での希望や要望に出来る限り寄り添える体制をとっている	表出可能な利用者が多く「テレビが見たい」「ご飯が美味しい」「帰りたい」等がある。把握が困難な場合は職員間で話し合ったり、日々の生活の中で問いかけたり、表情の変化で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からの情報を聴きその環境に近づけるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送り等職員間の情報共有を行い現状把握し対応している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員と居室担当職員を中心にプランの見直しを皆様家族に確認しながら仕上げていく</p>	<p>介護計画は、事前に家族の意見を面会時や電話等で聞いて、職員間で話し合い作成し、家族に確認している。生活支援、健康面を重視した介護計画に留まっている。定期的見直し、モニタリングも半年毎に行われ、iPadに実施状況を記録している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間の情報共有を行い、記録と変更事項があれば介護支援専門員への報告を行い見直しなどを行っている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者様の観察をし変化があった場合は職員間で情報共有し、必要に応じて支援見直し変更を都度行っていく</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在地域との関わりが出来ておらず施設内での努力をしている(行事やレクリエーション)</p>		
30	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様個人個人のかかりつけ医で健康管理出来ている。9名のうち2名は訪問診療。グループホーム看護師からホームでの状況を主治医へ報告している</p>	<p>かかりつけ医への受診は家族対応で、情報提供は看護師が中心となって家族に口頭で伝え、必要時には書面で提供している。受診後の診療情報は家族より口頭で受けて、申し送り職員に伝えている。看護師は、処方された薬を薬情に基づき服薬ボックスへ配薬している。</p>	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は観察を常に行い日常的事業変化を看護師へ都度報告し、看護師から主治医へ報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院と電話連絡を取り看護師、主治医から情報を頂いていつ戻ってきても大丈夫な体制を整えている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族への看取り希望の確認、延命の希望の確認、状況報告をしながら都度行っている。また勉強会の参加をしスキルアップをはかっている	看取りに関する指針も作成し、重症化、終末期に対する意思は1年に1回ご家族に確認を行っている。看取りを希望される方もおられ、職員は法人が行っている研修への参加希望をだしている。看取り経験の職員もいる。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成しホーム看護師の指導の下行えている。勉強会の参加(AED)でスキル維持をはかっている	急変や事故発生時や連絡体制のマニュアル、急変時の治療(心肺蘇生法)に関する説明と同意書が作成されている。事故、ヒヤリハット等は、職員間で確認しiPadに入力、法人に報告し、法人内の安全委員会に職員も参加し、事故、ヒヤリハット事例について話し合っている。年2回法人で行うAED講習会に参加している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	定期的な避難訓練を老健と共に行っている。ホーム看護師により感染対応の勉強会や統括本部の安全管理、感染管理主任とこまめに連絡を取り合い対応している	法人の他事業所と合同で防災訓練の計画があったが実地されていない。非常口の表示、緊急連絡装置、スプリンクラーなどは整備されている。毎月事業所内で独自の防災チェックシートで管理をしている。災害用の備蓄は法人で管理している。感染症に関する対策マニュアルは作成がされている。	基準省令に年2回(グループホームは昼夜想定)の避難訓練が謳われています。利用者、職員が安全に避難できるよう訓練の実施に期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけプライバシーへの配慮行っている。入浴は一名対応している。ホーム奥のカーテンは現在法人へ改善検討依頼している	職員はわかりやすい言葉かけを心がけ、プライベートな事柄は利用者の耳元で話し掛け確認を行っている。入浴は利用者の希望に沿って同性介助、異性介助で対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを積極的に取り意思を引き出せるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめ決定している体操などは体調や気分を考慮し参加してもらっている。その他は自由にゆったりと過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択できる方には着替えまでご本人にしている。またご家族に着慣れた洋服やご本人の好みであるものを持参してもらっている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは管理栄養士からのバランスの取れた献立を頂き調理は職員で行っている。片付けに関して歩行可能な方は声掛けして下膳や食器洗いをしてもらったりしている	3食を事業所で調理提供している。利用者は下ごしらえや下膳、食器洗い、おやつ作りに参加している。おやつ作りでは、ホットプレートを使用し、たこ焼きやヒラヤーチー作りを行っている。利用者の嚥下状態に合わせミキサー食、荒刻み食を提供している。個々のペースに合わせ介助や見守りで食事をとっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下食事量など調整している。嚥下能力に応じミキサー食や刻み食にして接種してもらっている。水分も食事量も記録し不足しないよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導し利用者様に適した口腔ケアを行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在おむつは1名のみ。昼夜共にトイレ誘導、Pトイレ使用など行い残存機能維持を心がけている	職員が声掛けをし、日中は全員がトイレで排泄を行っている。完全自立の方もいる。夜間は睡眠時間確保のため、パットの利用や室内でポータブルトイレ利用など、利用者個々の体調、状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別での適度な運動や全体でのレクリエーションを行い、十分な水分摂取をして頂いている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマン介助(見守り)で入浴して頂いている。一日に入る人数は基本3名のみとし慌てずに入浴できる工夫をしている。状態、状況によっては変更も出来るようにしている	入浴はシャワー浴の個浴で、シャンプー、保湿剤など好みの物を使用している。補充はご家族が行っている。着替えは、利用者と一緒に選んだり職員が準備している。脱衣室には腰掛け出来るよう畳ベットが置かれており、個々のペースで入浴後の支度を行うことができる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動や安心する雰囲気づくり、声掛けを行い、空調の設定や照明の調整を行っている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師を中心に薬管理表を作成しておりその都度職員が確認できるようにしている。誤薬がないよう服用時にはダブルチェックしている	看護師が利用者個々の薬ボックスに配薬している。個々の処方薬の情報はファイルに綴り、服薬ボックスの近くに置かれている。職員は1日の服用タイミングに合わせて薬を取り出し、利用者の服薬支援を行っている。服薬は早番がダブルチェックを行っているが、誤薬があり、報告書を作成している。	服用する薬の目的や副作用、用法、用量について、職員は理解し、安全な服薬支援のためのマニュアルに沿って支援出来るよう話し合い、共有に期待したい。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの低い方は音楽鑑賞やラジオ、本が好きな方は新聞や雑誌、手芸が好きな方は編み物などご本人の好きなことを楽しんで頂いている。本人の洗濯物は自分で畳んだり、おやつ後の食器洗い、もやしの髷取りなど行ってもらっている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は病院受診の時のみ外出している	コロナ禍の影響によりレクリエーションとしての外出は行えなかった。事業所前に芝生と木が生えた庭があり散歩をしたり、実ったシークワサーを収穫し気分転換を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関してはご家族の管理がほとんど。生活物品の買い物についてはホームへおこづかいを預かり金銭出納帳に記録し管理している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて対応している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち空調調節をすることとホールでゆったりくつろげるようソファを配置したり席をそれぞれの利用者様に合った配置にしている。また季節感を感じられるような装飾品を展示している	入口、ホールの3方向に大きなガラス窓があり、外の風景を見ることができる。ホール内はダイニングテーブルが3つあり利用者同士の間にアクリル板を設置し、感染防止対策としている。3人掛けソファ、1人用ソファが壁際に置かれ利用者がくつろいでいる。天井に利用者と職員が一緒に作成した季節の装飾がある	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席を決めて居場所の確保と認識をもってもらい、合同の体操や個別の機能訓練以外は自由に過ごしてもらっている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族に説明し本人のなじみの枕や毛布など持ち込みしてもらっている。趣味のものやクッションなどの私物も自由に持ち込みしてもらっている	室内は整理整頓され、家族写真を飾ったり、好みの生活用品が置かれている。ペット柵の怪我防止カバーは手作りの物を使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室入口の表示など入居者様が分かるように工夫している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自治会の方との運営会議がコロナ禍により開催出来ていない	緊急事態宣言発令中を除き状況を見て相談しながら出来る限り開催する。出来ない時は書面での通知を行う	自治会の皆さんへ開催の連絡をし日時報告、可否の確認を取る。また開催できない時は書面での報告とすることも伝える	3ヶ月
2	35	避難訓練が今年一度も行えていない	隣のおもと園と一緒に避難訓練を年2回行う。一緒に行えない時にはGHさくら単独で消防署へ連絡の後単独で行う	おもと園と連絡を取り合い開催日時確認する。できない場合はさくら単独で行うことを報告する	6ヶ月
3	47	服薬について副作用や用法について周知が甘い	利用者様の服用している薬の内容について職員全員がしっかりと把握出来るようにする	GHのミーティングで利用者様の薬についての勉強会を行う	6ヶ月
4	48	楽しみ事、余暇活動の充実を図る必要がある	毎月室内、外問わず工夫してイベントやレクレーションなど楽しめるものを提供する	季節を感じる手工芸や施設目の前の広場を利用してBBQなどを楽しむ。室内では一緒にたこ焼きなどを作り食べてもらう。近隣を少人数でドライブする。	3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

